

四王寺山勉強会

四王寺山勉強会は、太宰府市文化遺産調査ボランティア活動の中核に、四王寺山に関する歴史や遺産、そして環境や風景についての調査活動と勉強を行っています。現在までに四王寺山の石仏・ビューポイント・地名の調査等を実施しています。

その活動のひとつとして、「四王寺山の太宰府町道」をクローズアップさせ、いろいろな“物語”を持つこの道を、市民が親しめる散策路、あるいは子どもたちが歴史と物語を学べる体験学習の場としていくため、関係機関と連携しながら整備をすすめ、この道を将来に守り、伝えていくための活動を行っていかうと考えています。



太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・人・出来事。これを将来に伝えていきたいと思う物語と、守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切なんだと納得したものです。

太宰府市民遺産（太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝）
 =守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから（活動）」
 【「ちから（活動）」の源となる物語（思い）】



■例えば

- まちづくりの基礎をつくりあげた人
- 四王寺山の堂々たる姿が見える場所
- いつもお詣りしているお地蔵さん
- 道ばたにある、むかしの道標
- おばあちゃんがやってる数珠くり
- 40年つづく団地の夏まつり



など、将来に伝えたい太宰府の個性がたくさんあります。

かつてあった道 『四王寺山の太宰府町道』

太宰府市民遺産：第3号
 認定：平成23年1月30日
 景観・市民遺産育成団体：四王寺山勉強会
 発行日：平成28年3月1日

太宰府市景観・市民遺産会議【URL:<http://www.市民遺産.jp>】

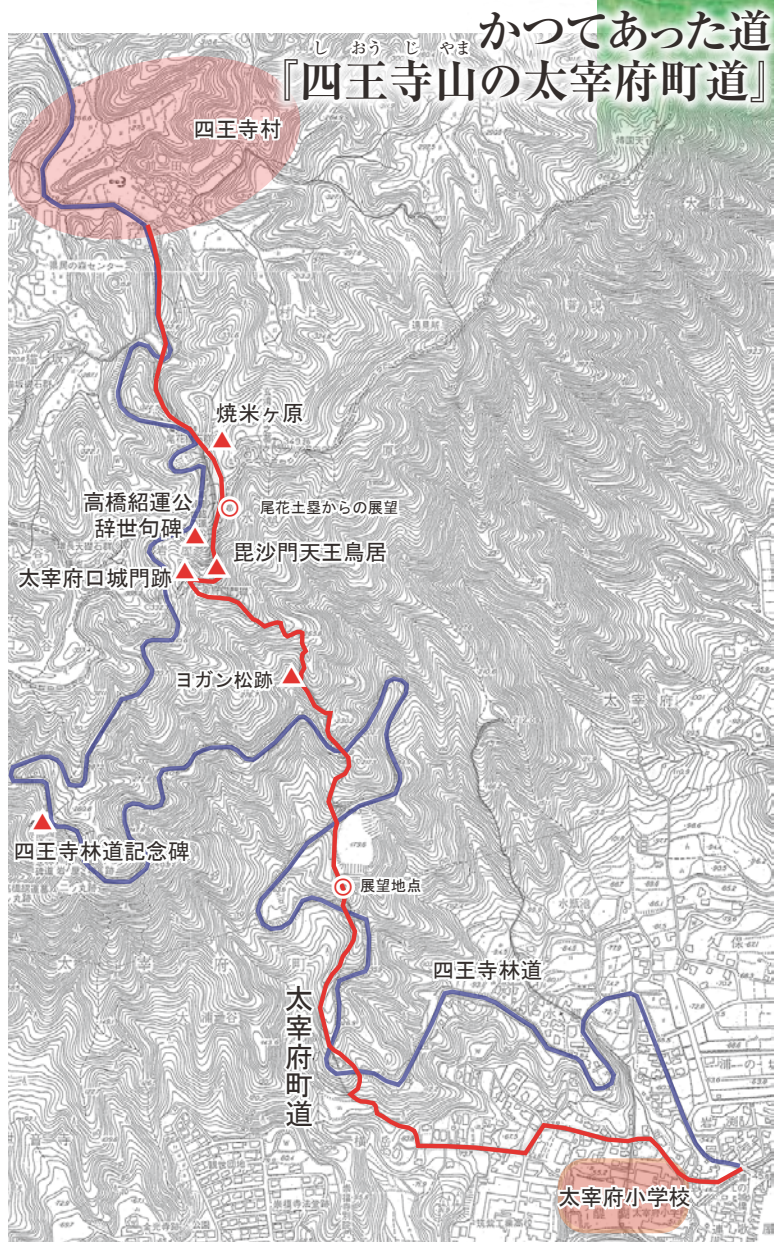


太宰府市民遺産

第3号

かつてあった道 『四王寺山の太宰府町道』





この道は、「太宰府町道」という昭和40年代まで太宰府と、となり村の四王寺村をつないでいた幹線道路で、四王寺村の子ども達が、太宰府小学校まで通っていた道でした。子どもはもちろん大人たちが太宰府の町に買い物に行く道でもあり、幅3m前後の道を荷物を運ぶ牛も通っていたそうです。

昭和40年代に四王寺林道完成した後も、一部の道は昭和60年代まで使用されていました。現在でも地図に描かれているこの道は、四王寺林道が完成するまで、経済的にも文化的にも太宰府と四王寺村を深く結びつけていた大切な道でした。



大野城跡尾花土壘からみる太宰府の街並み

四王寺村を出て焼米ヶ原まで登ると、視界が開け、宰府の町並みが眼下に見えます。そこから毘沙門天王の鳥居をくぐり、太宰府口城門を横に見ながら下って行きました。現在道は森林に囲まれ、道中で市街地を望める場所はほとんどありません。当時の四王寺山は樹木が少ない山で、途中に「ヨガン松」という歪んだ形の松があったくらいで、西鉄太宰府駅に到着する電車の姿も見えていました。

大正15年発刊の報告書の地図に、うっすらと「太宰府町道」の文字が見えます。

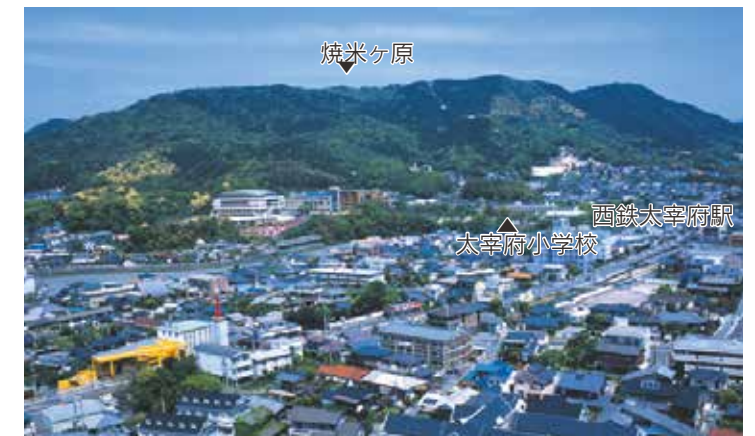


大野城跡の礎石が並ぶ焼米ヶ原では、道端で焼けた米がいっぱい出てきていました。

太宰府口城門横の土壘上にある毘沙門天王の石鳥居は、昭和10年に四王寺村の人々によって造られたもので、道はその下を通り抜けます。



太宰府口城門では「石こづんばば」の伝説があって、小石が高く積まれていました。この城門の横を道は続きます。



太宰府小学校と四王寺山

高低差約280m、全長約4kmの山道を通う四王寺村の子どもたちは足が丈夫で元気だったそうで、朝は40～50分程で登校していました。その姿を見た人は次のように記しています。「崇福寺横の登山口から旧道を通って上がる途中、男女の小学生数人が旧道を下って来るのに出会ったが、これらはこの部落の児童達で、太宰府小学校に通っており、毎日四軒の山坂を上下しているので、とても健康そうな子ども達であった。」

(上村高直『太宰府 いまむかし』昭和47年)



現在の太宰府町道

現在は森の中の山道となっている道も、当時この道を通っていた人たちの話を聞くと、子ども達の元気な登下校風景が蘇ってきます。この道の思い出や風景は四王寺山の日常の歴史のひとつとして、後世に伝えていきたいと考えています。